

# 令和5年度 学校自己評価（最終報告）

上田市立武石小学校

学校教育目標		めざす子どもの姿	総合評価					
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶ武石の子		学び合い高め合う子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、元気に学校生活を送っている児童が多い。</li> <li>・学年関係なく、仲良く遊んだり、教え合ったりする姿が見られる。</li> <li>・グループ活動や話し合い活動を通して、意見を言い合ったり、ICT 機器を活用したりし、学び合いの場面を設定した。</li> <li>・学校行事において、子どもたちの支え合い、学び合いの場面を多く見ることができた。</li> <li>・音楽会、運動会から、元気な中にも、課題に真剣に取り組む姿が見られた。（学校運営委員の方より）</li> </ul>					
今年度の重点目標		「良いところ見つけ・生活を整える・自ら考え、伝える」						
重点目標		成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価				
重点1 豊かな人間性  自分の良さと共に、 友だちの良さを認められる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間を中心に、「相手の気持ちや立場を考えること」を指導してきた。また、学級の時間では学級会を開き、お楽しみ会等を企てる経験をさせることで、クラス全体で「仲間づくり」を意識して生活させた。少しずつではあるが集団として頑張ろうとする姿が見られるようになってきた。</li> <li>・学年を超えて活動ができる児童が多い。高学年は低学年の面倒を見たり、お手本になったりしている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の行事等を通してより仲間としての気持ちを醸成していく。教師が発見したよいところを積極的に子どもたちに伝えていく。</li> <li>・自己評価、相互評価の行い方について考えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権の事業参観を拝見し、学年に応じた様々な課題の取り組みが分かりました。特に、「人権の集い」で発表された2名の作文は素晴らしく、感じたこと、学んだことを素直に表現できていたと思います。またレッツチャレンジにおいても、学年の枠を超えて仲良く、楽しく活動できるところが小規模校ならではの素晴らしいところだと感じました。</li> <li>・音楽会を鑑賞したが、1人1人が活き活きと活動できていた。クラスが1つになり、素晴らしい音楽会だった。</li> <li>・山間地域の学校として、四季に応じた農林業の体験を地域の方々とともに実践することで、学校生活に子どもなりの張り合いができ、楽しく学校に通えることができると感じます。</li> <li>・多様化する児童への対応に苦慮されていると思いますが、少人数でのクラス運営のメリットを生かし、児童同士の結びつきや先生方との繋がりを深く温かいものにしていただければと思います。</li> <li>・校庭運動会・音楽会においては、長きにわたり営まれてきた本校の活動を現在の児童たちが立派に引き継ぎ、新たにキャラクターづくりや武石音頭の披露など、保護者・先生方と一体となって進められ、150周年を記念する意義深いものとなりました。</li> <li>・自分の良さがわかるというのは難しく、相手からほめられたり、認められたりすることで自覚することが多い。よって、家庭でも話をする時間を取ってもらえる工夫をなげかけていただきたい。また、地域で思いや考えを発表したり交流したりする機会を考えたいただけるとありがたい。</li> <li>・地域の方との色々な行事（授業）を取り組んでいただき大変ありがたい。</li> <li>・放課後自習室に来ている児童は、よく学習に取り組んでいる。放課後自習室を通して学習習慣がつけばよいと思う。</li> <li>・運動会での姿をみていると子どもたちが活き活きとしていて嬉しく思う。学校生活の充実を感じる。</li> </ul>				
重点2 健康・体力  活き活きと活動できる子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気アップタイムで体力向上に向けた取り組んだ。</li> <li>・「体を動かすことが楽しい」と思っている子がいる一方で、体を動かすことに対して消極的な気持ちをもっている子もいる。ひとりひとりが、それぞれ体を動かすことへの楽しさを感じてほしい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの学年、個人に合った目標を設定し、そのために何をやるのか明確な活動を設定してやっていく。</li> <li>・なかよしタイムやクラスレクなど児童が積極的に体を動かす活動を今後も仕組んでいく。</li> </ul>					
重点3 資質・能力の育成  課題に向かって粘り強く考え、 伝え、解決できる子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の課題、道徳、国語の課題など考えて発表する機会をできるだけとり、自分の考えを伝える時間をとった。</li> <li>・めあて・まとめ（ふりかえり）を意識して授業を実施した。授業の流れをパターン化することによって、子どもたちも私自身も見通しをもって学習に取り組むことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人に伝えるところに課題が残る。今後も機会を増やし、少しずつできるようにしていく。</li> <li>・基礎基本の確実な定着のために、家庭学習の工夫、ICT 機器の効果的な活用をしていく。</li> </ul>					
領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育指導活動	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用を進めることができたか。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びのある授業を行うことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話を心がけた授業が行われていた。子ども達の発言する姿から感じる事ができた。</li> <li>・子どもたちが、ICT 機器、chromebook を使う場面を多くとることができた。今年度は、開校150周年記念と言うこともあり、ステージ発表の準備や調べ学習に活用した。</li> <li>・小人数を生かし、互いがリラックスして語り合う授業展開を図った。（伝え合う力）</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年ほどグループ討議を取り入れ、自分の思いや考えを伝えたり、相手の考えを自分の中で深められる（色々な思いや考えを知る）機会をもってもらいたい。</li> <li>・ICT 活用ありきにならない活用場面の工夫をしていく。</li> <li>・主体的、対話的で深い学びを行う授業にするために、子どもたちの興味を引き出す学習課題の設定はどうあったらよいか考えていく。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてや具体的な手立てがわかる課題解決型の学習ができたか。</li> <li>・文字や言葉で表現する場を多く設定できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターでの提示、手本の資料、板書の工夫、デジタル教科書の活用など、視覚支援を心がけた。</li> <li>・毎時間の授業の流れ、やること、目標が分かる板書を心がけ、継続したことで、子どもたちも毎回その黒板を見て、1時間の流れを確認していた。</li> <li>・言葉で表現する場があるとき、ない時に偏ってしまったので、毎回少しずつでも設定していくことが課題。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア活動、グループワークなど、子ども同士が考えを深め合えるような活動を、毎時間少しでも取り入れたい。形だけにならないような工夫も必要。</li> <li>・児童が見通しを持ち、積極的に取り組めるような授業を仕組めるようにするために、学習課題やめあてを明確にする。</li> </ul>
	家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手引き」を活用し、家庭学習が充実がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に家庭への周知は行った。5月にたけっ子学習週間の実施をし、家庭学習への意識を高める取り組みを行っている。12月に2回目を実施予定。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭、児童自身の家庭学習への意識、大切さを理解できていない部分が多いため、さらに周知が必要。</li> <li>・自主学習の取り組みについて、系統性を持たせた取り組みになるよう、職員間で共通理解を図っていく。</li> <li>・継続的に指導していく。</li> </ul>
	南部支会の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南部支会4校での児童生徒の交流が図れたか。</li> <li>・学年会・教科会等での学び合いができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の交流を行ったり、連絡を密にしたりしている。</li> <li>・小中交流や、音楽交流、オンラインで実現できた。</li> <li>・日常的にオンライン交流は難しかった。</li> <li>・他校の自主学習の取り組みを紹介し合うことで、お互いにより刺激になった。</li> <li>・今年度は直接会、武石川や他校での交流ができた。直接会って話ができることは子どもたちにとってもありがたかった。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小3校が足並みを揃え、交流をさらに深めていく。</li> <li>・直接会って交流ができるようになったので、計画的に交流できるようにしていく。</li> </ul>
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的・自主的な活動</li> <li>・認め合い、所属感のある学級活動がなされたか。</li> <li>・共生社会の担い手を育成する児童会活動がなされたか。</li> <li>・「個の確立」を図る学校行事や集会活動がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学級も元気に活動している。個を大切に、どの子にも自己肯定感を高める活動、声かけを全職員で積極的に行っている。</li> <li>・様々な理由で、思うように活動に参加できない児童もいるため、児童の心に寄り添いながら自主的に参加できる支援を考えていくことが課題。</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち一人一人に居場所があるように、職員が子に合わせた支援が出来るようにしていく。</li> <li>・子どもたち同士で「認め合う」場面を日常的に設けていきたい。</li> <li>・学級経営の見直し、子どもへの関わり方、見取り、声かけなど、教師同士が連携し、全職員で武の子どもたちを育てる意識をさらに高めたい。</li> <li>・全校での行事を大切に、集団（仲間意識）を大切にしたい。</li> </ul>

学 校 運 営	道徳 総合	心を耕し考 えを広める 時間の充 実	・教材研究が十分できたか。 ・地域の素材を生かした学習 ができたか。	・連学年で米作りに取り組んだことにより、学年間交流がで きたり、地域の方とも交流できたりした。 ・特別老人ホームともしびに行き、人権の花を届けたり、武 石首頭を披露したりした。できるだけ交流を図りたい。 ・道徳の授業では、自分の考えの変化や、友だちの考えを 聞くことで、いろいろな考えがあることに気づく授業を仕組 むことができた。	○	・地域の連携を大切に総合的学習の時間の教材を子どもた ちの実態に合わせて考えていく。 ・行事が重なり、準備や活動が困難なところがある。年度当 初から計画的に進めていくことが必要。 ・地域素材、児童の実態に合わせ道徳の教材を選んでいく。
	家庭・ 地域 との 連携	相談 ・支援 体制	・児童、保護者の声を大切に した相談を行い、支援につな げることができたか。	外部関係機関と連携をし、登校渋りのある児童に、「不安を 話せる」人を増やすことができた。 ・より学びやすい場を、保護者と連携して探ることができた。 ・ノートや日常的な連絡を密にし、相談できる雰囲気を作る ことができた。 ・相談週間で担任と一人ひとりの児童と懇談を行った。子ど もの悩みを知る良い機会となった。その子の悩みに対し、ど んな支援がよいのか話し合うことができた。 ・保護者の悩みの声を聞き、支援につなげることができた	○	・児童アンケートの取り方が、低学年ではどれが自分の思い なのか選びにくくないか。アンケートの取り方の工夫ができ ないか。 ・不登校傾向改善に向けて、今後も家庭、原級との連携を図 っていく。 ・児童の悩みとご家庭での悩みを学校としてきちんと聞き、主 訴をとらえたい。どんなことが問題になっているのか、全職員 で共通理解し、職員全体で対応するようにしたい。
	情報発信	・学校便り、学年便り、ホーム ページ等で学校の様子を伝え ているか。	・学校だより、年間行事予定、学事報告により、学校の様子 を知ることができた。 ・学年だよりを通して、子どもたちの学校での様子を伝える ことができた。 ・金管バンドだよりで、活動の様子を伝えることができた。 ・月一の学校だよりや週一回のHPの更新で校内の出来事 を発信している。また、地域の力を借り、(丸子テレビ・佐藤 新聞店さん)にお願いしている折り込み)できる限り、多くの 情報を発信するようにしている。	○	・引き続き、情報発信により、学校の様子を知らせてほしい。 ・様々な方法で取り組まれている情報発信の中でも地域全 戸配付の「学校だより」では、限られた紙面の中で子どもた ちの生活の様子が的確かつ活き活きと伝えられていて親し みやすい。今後も継続を願います。 ・ホームページが活用できていない方々にも情報が伝わりや すいよう、エリアトークの活用もお願いしたい。 ・今後も、子どもたちの良い面が伝わるように、そして、意欲に つながる内容を心がけたい。  ・これからも学校方針や多くのことを発信していく。	
	地域から学 ぶ・地域 の教育 力の 活用	・自然環境を生かした学びを 進めたり、地域の教育力を活 用したりすることができたか。	・地域めぐりで住民の方から話を聞くなど、児童と交流しな がら地域への思いを知ってもらえるよう努力されていること が良かった。 ・上田市の支援事業にご協力いただき、芸術家を招いた講 座を行うことができた。こういう機会を大事にしていきたい。 ・地域ボランティアの方々に多くの協力をいただき、様々な 活動をしている。地域力で多くの体験を行うことができてい る。地域ボランティアの力に感謝している。	○	・地域の方々の協力を得ながら、今後も積極的に連携し、活 動していく。連携はしていくが、やっていただいていることを当 たり前と思わずに感謝の気持ちを忘れないようにしたい。	
	研 修	授業力の 向上	・「みんながわかる・できる」 授業実践のために、日々授業 改善をし、研究会を通して学 ぶことができたか。	・各研究部会が、授業を公開をおこない、全校で学ぶことが できた。 ・学力差の大きい中、みんなが分かる授業の実現のためには、 どのようにしたらよいか、さらに考えていく必要がある。 ・伝え合う授業をするためにどんな内容、方法の授業を仕 組むことが必要かさらに研究を重ねたい。	○	・学校全体で一つの教材の研究をすることで、いろいろな指 導法方法を知ることができ、職員の意識改革にもなってい る。 ・学力差のある児童をどのように指導していくか。職員の授 業改善を図る中で考えていきたい。
組 織	情報 の共 有・全 職員 による 学び 合い・支 え 合い	・教科指導や生徒指導などに 関わる情報を共有し、チーム で支援・指導にあたれている か。	・小さなことでも、連絡を密にし、報告するようにしている。 多くの先生方が支援、指導してくれるのでありがたい。 ・原級、支援級と常に連絡を取り合いながら進めていけてよ かった。 ・授業やそれ以外での子どもたちの様子を職員間で共有 することや、相談することを積極的に行い、多くの職員の目 で子どもたちを見ることができた。そして、自分自身も支え られた来たので、職員間のコミュニケーションを今後も続け ていきたい。 ・学校全体で情報共有し、配慮を要する児童に対し、支援を 続けている。連学年での支え合い、特別支援学級との連携 を大切にしている。	○	・今後も、職員間で情報共有し、全職員で子どもたちを見て いく。 ・定例の学年会を中心に、職員間のコミュニケーションを大切 にしていく。	

A…達成された      B…ある程度達成      C…あまり達成されていない      D…達成されていない